

調査研究評価調書<中間評価>

研究番号	No.1	担当部	健康・食品安全科学部	研究期間	平成30～令和2年度
研究課題名	石川県における薬剤耐性菌の保有状況の把握				
研究課題概要	<p>現状・背景 近年、薬剤耐性菌の拡散は国際的に大きな問題となっており、2014年のWHO総会において「薬剤耐性に関するグローバルアクションプラン」が採択された。我が国においても2016年4月「薬剤耐性対策アクションプラン」が策定され、その骨子の1つである動向調査・監視及び感染予防・管理を担うべき機関として地方衛生研究所が挙げられている。国内では、薬剤耐性菌の分離状況を把握するため、厚生労働省の院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）で全国的な薬剤感受性サーベイランスが行われているが、薬剤耐性菌の分離状況は、地域や施設間で異なることが知られており、より正確な状況把握のためには地域におけるサーベイランスが重要である。また、耐性菌の蔓延は院内感染だけでなく、市中においても問題視されるようになってきており、地域における総合的な感染症対策を行っていく必要性が指摘されている。</p> <p>当センターは県内唯一の地方衛生研究所として、石川県における薬剤耐性菌の動向を把握し、情報提供を行うこと、また、県内の医療機関において薬剤耐性菌による集団発生が起きた場合、適切に助言・指導するための体制強化をする必要がある。</p> <p>研究目標 石川県内の薬剤耐性菌の保有状況を把握し、耐性菌の拡大抑制に資する情報を提供する。</p> <p>研究計画 (1)石川県内の医療機関で分離されたCRE及びESBL産生菌を収集し、耐性遺伝子の保有状況を調査。 (2)健常者糞便からCRE及びESBL産生菌を検出し、市中における耐性遺伝子の保有状況を調査。 (3)県内で市販されている食品からCRE及びESBL産生菌を検出し、耐性遺伝子の保有状況を調査。対象とする食品は、ESBL産生菌の検出率が高いとの既報がある鶏肉とする。 (4)上記調査結果を比較解析。</p>				
これまでの成果	<p>(1)平成31年3月末までに収集されたCRE56株について耐性遺伝子の保有状況を検査した。耐性遺伝子保有株は18株(32%)で、カルバペネマーゼ遺伝子保有株は5株(9%)であった。カルバペネマーゼ遺伝子の内訳はblaIMP-1が2株、blaIMP-6が3株であった。</p> <p>(2)平成31年3月末までに収集されたESBL産生菌736株について耐性遺伝子の保有状況を検査した。ESBL耐性遺伝子保有株は717株(97%)であった。</p>				
評価結果	A	優先して継続していくべきである			
委員会意見等	<p>薬剤耐性菌対策は世界的な課題であり、本県の状況を把握することは意義が大きい。石川県における薬剤耐性菌の遺伝子保有状況を、医療機関からの多数の検体を収集して行い、その情報を医療機関にフィードバックできたことは評価でき、研究は順調に進捗している。</p> <p>一方で、通院・入院していない被験者のデータも比較解析に重要であり、それは食事を含めた地域特性の解析にも有効と考えられる。したがって、非通院・入院被験者のデータ数の増加にもできるだけ努力を払うなど、できるだけ広くサンプルを収集して、成果が得られることを期待する。</p> <p>また、独自培地による検査法は、通常法との比較評価可能な形でデータを確立しておかないと、得られたデータが使用困難となるので注意されたい。</p>				

調査研究評価調書<中間評価>

研究番号	No.2	担当部	健康・食品安全科学部	研究期間	平成30～令和2年度
研究課題名	石川県における蚊媒介感染症対策に関する基礎的研究				
研究課題概要	<p>現状・背景 平成26年に約70年ぶりに発生したデング熱の国内感染事例等を受け、国は「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針」を策定し、行政機関、医療機関、県民等が一体となって各地域の実情に応じた媒介蚊対策を行うよう提示している。そのような中、県健康推進課では、指針に基づき様々な蚊媒介感染症対策を進めてきており、当センターは、県内の媒介蚊及びアルボウイルスのモニタリング調査を含めた技術的な対策の確立や充実が求められている。</p> <p>当県では北陸新幹線の開通もあり、県内への旅行者が倍増し、中でも東南アジア等の外国人の増加が顕著であり、これまで以上に蚊媒介感染症の県内侵入の危険性が高まっており、本研究を通じて当県の媒介蚊対策が充実することは、非常に有意義である。</p> <p>研究目標 県内のデング熱等の蚊媒介感染症対策の基礎資料とするとともに、今後の県が行う的確な媒介蚊及びアルボウイルスのサーベイランス体制整備の一助とする。</p> <p>研究計画 (1)モニタリングポイントの選定 (2)蚊の収集、同定及び計測、ウイルス検出手法の習得 (3)モニタリング調査</p>				
これまでの成果	モニタリングポイントの選定については、大学の有識者の指導のもと予備調査を実施し、その結果を踏まえポイントを決定した。また、大学や他衛研で蚊の調査法について指導を受け、収集に必要な道具、方法、鑑別方法について習得した。				
評価結果	A	優先して継続していくべきである			
委員会等意見等	<p>蚊媒介感染症(デング熱等)に対する対策は、増加する外国人や温暖化を踏まえ、我が国でも重要な課題になっている。本研究によって、蚊捕獲法とその解析法が順調に確立された。それらの技術の習得、確立は意味がある。</p> <p>今後は、得られた結果をベースに現状把握に努め、その結果をどのように解釈し対策に生かすかを検討したうえで、綿密なモニタリング調査を実施して、更なる成果が得られることを期待する。そのためには、大学の研究者等の専門家とのディスカッションを行うなど、学術的な交流が必要と考えられる。</p>				